



濱底小史教授種
全



関川董少人書

済

濱庇小児教授
家

東都書林 金華堂梓



自序

字法をくくし漢多々物けり
よれいもとほりなりとて久哲
のくくしじ道なりふか今
予著とてあまの濱庇い
困留らるくよれとて終

とくはくもあつたに
きとくをききあつた
しはくもあつたに
うん遠境の人あつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

濱麻小児教種

史九千九百八

國らと肥不教者種

小く魚種専ら

四季のふりかへる後日か

とくふふりかへる酒子

舟のく一樹の影

さふりかへる涙の双

の氣ふかからる雲

く漁のこゝろの

空をくくく

あふ海の中

かゝるこゝろに

船二艘一舟

一舟は

舟一舟

見りて

舟

舟

舟

の縹しらもあくすはか太おほ紋も

ようくすはかくす

水みづ花はなのはな枝えとと激げき

小こ魚い成な逐と人ひとにに

渚しづののししららししととささ

魚い之の大おほ箱はこ中ちゆうのの脊せき

星ほし網あみ絆むす籠かご籠かご中ちゆうのの

環たま魚い津つににああるる

水も果てしなく海に

此後幾多の道見

新成多細と縁

くらりた左方小

色棹しく懸た海面

少くも是と費財

細きも充滿

魚の心は許さ

天下の事は皆土に成る

一時千金の業も色

に形ありて思ふに理也

老少男女大徳小

徳と持徳とて

事十歳ふかぬ小

賢少多れ金徳と

徳対ふりて

かへく長文いりふ

しんあつね

小自然いり踏

とよ酒店総務屋

賭場小控衆い金

秋と聲芬い

あしあつね

消極い日あふ山

江戸町にありて中丸
城町にありて満道
流人全體に疼痛
とけとぬる親の

如苗はる事新夜
非人の姿とあり人
丸に復りて遠核
妻の家は親にあり

親類に意を懐ら
かぬ身とある體
と恨みなきもの
小細りなと見たり親

師のとりては守り
心魂は碎ふも若
學人懐かしく事
凡七八歳より世に

すむまゝに百端と

ひともあまきと闘争

海しほくろは平

八言紙揚家名村心

手車の人通和子

箱れと女おと若讀

相い今川庭前写書

五娘妻女求居の選

+

禱しぬい十務整
の徳古くくくく
とくそ親く七歳
のくくく十の六歳

といのく教友く
事也しし子也
く人ぬ母親く
之のく子ぬ家の

側と居る子
機柄取裁子
くけし終る人
の名は揚るる

母は實りて
例もあはれ
論し者として
小智頑から親

西不適に責指うと
憤をあり教さる
依姑の沙汰をせと
いふ事からふ所

らるものあり是其
子女をさるる也
い
くらくは用ひ相
十五日の所

小窓の思ふに美なる

之中用事等ありは

又名使ふと云ふ

し祢所へも出

て一冊中六七歳に

寺に少くも博

諸勝負漢女小文

の家小居く只

御 聖 十 五 五 十 歳 之

カ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

多道家伏興一子
孫繁昌中其基在

りてあそく

右一冊名流の人の書

海之巻

川龍行先生の人

岡川堂

今井經山書



安政五年新刻

十

関門董先生回舎小筆
の所々々々年々々々々々
とととととととととととと
道々々々々々人々々々々々々々
々々々々々々先生先生先生
先生先生先生先生先生先生

つとつとつとつとつとつと
強強強強強強強強強強強強
強強強強強強強強強強強強

安政五年

門人

玉門董
於本漫い護書



